

平成29年度 小学校教職員を対象とする環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」第6回「暮らしとエネルギー」

(テーマ：水素・省エネルギー)

□実施日時 平成29年8月25日（金） 10時00分～16時15分

□受講者数 11名（教員8名、研修・聴講者3名）

□実施場所 水素情報館 東京スイソミル

□実施内容

【午前】

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. 水素情報館 東京スイソミルの施設見学

- ・「私たちとエネルギー」「水素エネルギーの可能性」「水素社会のしくみ」「水素社会のいま」「水素社会と私たちの未来」「水素社会への希望」の6ゾーンで水素エネルギーについて学習
- ・自転車をこいで水素を作り、燃料電池ラジコンカーを走らせたり、木登り模型を動かす実験
- ・燃料電池自動車の常時・非常時の活用方法等の紹介 など





3. ゲストティーチャーからの講義及び実習

(ゲストティーチャー：東京都地球温暖化防止活動推進センター 認定エコアドバイザー 一條美智子氏)

「家庭でできる省エネのコツ ～かしこく暮らして すてきにエコ～」

- ・地球温暖化の現状とその影響
- ・東京のCO₂排出量と削減目標
- ・我が家の省エネ度チェック
- ・いろいろな省エネ
 - ① 一度やるとずっと省エネ
 - ② 少ないエネルギーで”快適”の工夫
 - ③ 買い替えでぐ～んと省エネ
 - ④ 省エネの肝は“お湯”の使い方



4. 環境学習プログラム「暮らしとエネルギーを考える」の紹介及び実習

(講師：NPO 法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏)

(1) 環境学習のポイント ～体験の重要性・森は命のみなもと～

- ・子供は実際に物事を体験する中で、理解し、気づき、学んで成長する。しかし、現代の子供たちは、遊びや地域との関わりが希薄であり、様々なことを体験的に学ぶ機会が少なくなっている。このため、学校教育の場で体験に基づき子供の感性を伸ばすことが、昔と比べ非常に重要。
- ・環境学習もその一環であり、「自然は人間やすべての生き物のいのちの源である」ことを、実際の体験や気づきを通じて、子供の心の中に落とし込むことが大切。

(2) 「暮らしとエネルギーを考える」プログラム紹介

- ・「日向と日陰」、「アスファルトと土の地面」、「コンクリート壁と木の幹と植え込みの中」、「エアコン室外機の近くと離れた場所」、「打ち水前と打ち水後」等、それぞれ条件の異なるポイントで実際に温度を測定し、比較を行った。



・ 風向計製作体験



(3) まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。



(発表意見の例)

- ・身近な省エネや温度測定など、子どもの実態に応じて工夫できる内容だった。
- ・1年生の生活科で、暑い場所と涼しい場所の比較をやってみたいと思った。小さいときの経験が大人になったときに生きると信じて、取り組んでいきたい。
- ・6年生なのでなかなか時間が取れないが、今日やった温度測定など、少しずつ還元していきたい。
- ・中学生でも十分役に立つ内容だった。エコアドバイザーのお話は、自分もドキッとすることもあった。自分の身の回りのことから、暮らしとエネルギーを考えることを実践していきたい。
- ・10年前の子どもたちと比べて、スマホや機器の使い方、知識などは増えているが、実体験が減っている。実体験がやはり大切と改めて感じた。
- ・水素のことを良く知ることができた。また、打ち水効果を実感した。打ち水に使用する水も、水道水だともったいない、じゃあどうしたらいいか、も含めて、子どもたちに考えさせてみたい。
- ・家庭科を担当しているが、環境や食といったテーマは取り入れやすい。今日の研修を受けて、これからどんな授業を組み立てるか、ワクワクしている。

5. 事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散